

令和4年度 事業報告

I 公益目的事業に関する事項

令和4年度においては、公益目的事業として、農業及び農村に関する調査研究、農業及び農村に関する調査研究の成果の普及、農業及び農村に関する調査研究の助成並びに農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰に係る事業を行った。

1 農業及び農村に関する調査研究

(1) 研究員による個別研究

各研究員の研究成果を『農業研究』に掲載した。(別添参考)

生源寺眞一研究員

調査研究の歩みを振り返る：基本は農業現場との交流

坪田邦夫研究員

食料安全保障：国際社会の潮流再考

河原昌一郎研究員

中国の農民合作社の動向と企業形態－改革開放政策開始から現在までの変遷と課題－

田家邦明研究員

米市場における競争の特性－産地品種銘柄の役割

岩元明久研究員

わが国近世までの牛馬飼養の歴史 上

岩元明久研究員

自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究 (10)

(2) 研究会方式及び研究企画委員会方式による研究

研究会の2テーマについて、研究員が主査となって外部の研究者と本研究所研究員から成る委員会を設置し、また、研究企画委員会についてはそれぞれ以下のとおり研究を行った。

① アジア食料農業政策研究会

主査 坪田邦夫研究員

平成29年度から標記テーマについての調査研究を実施し、令和4年2月に「変容するアジア食料農業と農政」(日本農業研究シリーズNo.26)として刊行した。ただ、その中の中国編が未完であったので、最新の動きを含め情報収集と分析を行った。まとめ次第全体の総括とともに別冊として刊行を予定している。

② 地域農業事情に関する研究会

主査 田家邦明研究員

平成29年度から標記テーマについて調査研究を行っており、主査による京都府及び京丹後市の行政関係者からの状況の聴取を行った。

③ 農業・農村の諸課題に関する研究企画委員会

農業・農村の諸課題について、興味深い論文を発表した研究者等を招聘し、報告を聴取し、意見交換を行うとともに、その者の了解を得て関係資料等についてホームページに掲載し、関係者に対し情報公開した。

令和4年度研究企画委員会

第1回（令和4年5月24日開催）

講師：小林 みずき氏

「若手女性農業者による職業キャリアの活用と「農村性」の商品化ー長野県における6次産業化の事例からー」

第2回（令和4年7月25日開催）

講師：小川 真如氏

「『日本のコメ問題』について」

第3回（令和4年7月26日開催）

講師：椋平 智博氏

「京都府オリジナル米「京式部」について」

第4回（令和4年11月14日開催）

講師：長友 謙治氏

「ロシアのウクライナ侵攻と世界食料需給への影響」

第5回（令和4年12月5日開催）

講師：清水 浩太郎氏

「みどりの食料システム戦略の実現に向けて」

（3）農業及び農村地域の動向に関する調査研究

農業及び農村に関する調査研究を行っている若手研究者を研究員に委嘱し、地域の動向に関する調査研究を行うこととし、令和4年度においては、引き続き、森田明氏（宮城大学食産業学群教授）、山浦陽一氏（大分大学経済学部准教授）、小澤 卓氏（公益財団法人日本離島センター調査研究部）に委嘱した。

その調査研究成果（森田明氏「東日本大震災後の津波被災地の農業生産と構造の変化～宮城県の場合～」、山浦陽一氏「地域福祉型地域運営組織の総合化と支援の課題ー定点観測5-2-」、小澤卓氏「離島での肉用牛生産について」）を『農業研究』に掲載した（別添参考）。

（4）実験農場における調査研究

実験農場においては、令和3年度から調査研究の対象となる生産活動を自ら実施することを止め、調査研究の目的（耕畜連携の推進、連作障害の回避のための作目の組合せ、GAP実践の展示等）を設定し、それに沿った生産活動を計画的に行う農業生産法人（株式会社つくば良農）に農場の農地等を提供し、調査研究に資する生産活動を行わせる方法に変更した。研究員はその生産者から生産活動のデータの提供をうけ、それに基づき分析を行う調査研究を行うこととし、畜産部門の研究員及び農業技術・野菜部門の研究員の2名体制で調査研究を行った。その研究成果を『農業研究』に掲載した。

なお、実験農場の運営に当たっては、当研究所及び農業生産法人を構成とした「実験農場連絡協議会」を設け、事業の実施状況等の把握を行った。

また、外部の学識経験者から成る「実験農場調査研究生産活動支援事業審査会」を設け、上記事業実施状況等の報告について意見を聞いた。

2 農業及び農村に関する調査研究の成果の普及

1の調査研究の成果を『農業研究』に掲載し、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表したほか、福島大学食農学類長 生源寺眞一氏他3氏を招き、講演会を開催し、参加者との質疑応答を含め、その講演録を『農業研究』の別冊として、大学等の関係方面に配布するとともに、ホームページに公表した（別添参考）。

令和4年度講演会

第1回（令和4年7月15日開催）

講師：生源寺 眞一氏

「地域と歩む食農学類－特色ある教育研究を目指して－」

第2回（令和4年8月23日開催）

講師：田下 隆一氏

「新規参入から38年 現在から未来へ」

第3回（令和4年9月22日開催）

講師：大本 孝則氏

「「青いレモン」で島おこしー岩城島による国産レモンのブランド化ー」

第4回（令和4年10月31日開催）

講師：佐々木 均氏

「消費者ニーズに応える水稻の多品種栽培と6次産業化の取組」

3 農業及び農村に関する調査研究の助成

農業及び農村に関する調査研究の将来の担い手に、その調査研究に対し助成し、併せてその成果を普及するため、平成19年度から「人文・社会科学系若手研究者助成事業」を実施している。令和4年度については、応募者から1名を選考し助成を行った。この成果は、研究成果として普及するのにふさわしいと認められた場合、令和5年度に発刊予定の『農業研究』に掲載する。

光成 有香 尚綱大学現代文化学部助教

「山地酪農経営の展開過程および成立条件に関する研究」

4 農業及び農村に関する学術上の顕著な貢献をした者の表彰

第30回（令和3年度）日本農業研究所賞1名の受賞者に対する表彰式を令和4年5月10日に開催し、表彰状及び賞金（100万円）を授与した。なお、受賞者は次のとおりである。

受賞者 研究業績の題名
寺田文典：乳牛及び肉用牛の精密栄養管理技術の開発に関する研究

II 収益事業

日本農業研究会館等の当研究所で使用していない部屋を、公益法人等9団体に貸し付けた。

III 法人の管理運営に関する事項

1 評議員及び役員等に関する事項

令和4年度の評議員及び役員等は、令和5年4月1日現在、それぞれ次のとおりである。

(1) 評議員

| | |
|-------|-----------------------------|
| 大杉立 | (八ヶ岳中央農業実践大学校長) |
| 春見隆文 | ((一財)日本醤油技術センター理事長) |
| 菊地敦子 | ((一財)公務人材開発協会代表理事) |
| 古在豊樹 | (千葉大学名誉教授) |
| 佐々木昭博 | (東京農業大学農生命科学研究科参与(客員教授)) |
| 佐藤洋平 | (東京大学名誉教授) |
| 染英昭 | (穀物乾燥貯蔵施設協会理事長) |
| 町田勝弘 | (元農林水産事務次官) |
| 松本光人 | (元農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所所長) |
| 吉田岳志 | ((公社)大日本農会会長) |

計11名

(2) 理事及び監事

| | |
|------|------------------------|
| 理事長 | 田家邦明 |
| 常務理事 | 菅原誠治 |
| 理事 | 市田知子 (明治大学農学部教授) |
| | 大野高志 ((公社)日本食肉格付協会会長) |
| | 岡島敦子 (元内閣府男女共同参画局長) |
| | 小澤健二 (元(公財)日本農業研究所研究員) |
| | 河原昌一郎 ((公財)日本農業研究所研究員) |
| | 生源寺真一 ((公財)日本農業研究所研究員) |
| | 竹内克伸 (弁護士) |
| | 西尾健 (法政大学名誉教授) |
| | 西澤直子 (石川県立大学学長) |
| | 松本聰 (東京大学名誉教授) |

計11名

監事

| | |
|--|-----------------------|
| | 高濱正博 (元食品産業中央協議会常任理事) |
| | 吉國隆 ((一財)大日本蚕糸会顧問) |

計2名

2 評議員会及び理事会等

令和4年度においては、評議員会、理事会及び監事監査は、次のとおり開催された。

(1) 評議員会

「第1回」令和4年6月15日（水）

出席者 10名（評議員総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和3年度決算書類に関する件
- ② 理事及び監事の選任に関する件

その他報告事項

- ① 令和3年度事業報告に関する件（令和4年5月25日理事会決定）
- ② その他

「第2回」令和5年3月22日（水）

出席者11名（評議員総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和5年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 理事の選任に関する件
- ③ その他

(2) 理事会

「第1回」令和4年5月25日（水）

出席者 9名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和3年度事業報告及び決算書類に関する件
- ② その他

「第2回」令和4年6月16日（木）

出席者 10名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 理事長及び常務理事の選定に関する件
- ② その他

「第3回」令和5年3月13日（月）

出席者 10名（理事総数11名）

付議され承認された議案

- ① 令和5年度事業計画書及び収支予算書に関する件
- ② 評議員会の招集に関する件
- ③ その他

(3) 監事監査

令和4年5月13日（金）

出席者2名（監事総数2名）

付議され承認された議案

令和3年度事業報告及び決算書類に関する件

3 職 員

令和4年3月31日現在の職員数は、次のとおりである。

本 部 研究員7名、総務部長（兼）1名、参事1名、主事補1名
計10名

実験農場 研究員2名
計2名

4 図 書

令和4年度における図書資料の受入れ状況は、下表のとおりである。

令和4年度収書数

| 区分 | 雑 誌 等 | | | 単行書（冊） | | | 備 考 |
|----|-------|---|-----|--------|---|----|-----|
| | 和 | 洋 | 計 | 和 | 洋 | 計 | |
| 購入 | 125 | 0 | 125 | 9 | 3 | 12 | |
| 受贈 | 337 | 0 | 337 | 9 | 0 | 9 | |
| 計 | 462 | 0 | 462 | 18 | 3 | 21 | |

蔵書数

| 区 分 | 数 量 | 備 考 |
|-------------|----------|--------|
| 単行書前年までの累計数 | 21,989 冊 | |
| 令和4年度廃棄数 | ▲740 冊 | |
| 令和4年度登録数 | 21 冊 | 購入、寄贈等 |
| 単行書計 | 21,270 冊 | |

（注）資料類には研究報告、紀要、資料等が含まれる。

IV 事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の内容を補足する重要な事項はないので、附属明細書は作成しない。

別 添

(参考) 令和4年度における主要調査研究成果

* 『農業研究』(日本農業研究所研究報告第35号)、令和4年12月、B5、355頁

目次内容

- ・ 第30回(令和3年度)日本農業研究所賞の選考経過報告(三輪睿太郎)
- ・ 調査研究の歩みを振り返る:基本は農業現場との交流(生源寺眞一)
- ・ 食料安全保障:国際社会の潮流再考(坪田邦夫)
- ・ 中国の農民合作社の動向と企業形態
 - －改革開放政策開始から現在までの変遷と課題－(河原昌一郎)
- ・ 米市場における競争の特性－産地品種銘柄の役割(田家邦明)
- ・ わが国近世までの牛馬飼養の歴史 上(岩元明久)
- ・ 自給飼料を利用した和牛繁殖の実証的調査研究(10)(岩元明久)
- ・ 東日本大震災後の津波被災地の農業生産と構造の変化～宮城県の場合～(森田明)
- ・ 地域福祉型地域運営組織の総合化と支援の課題－定点観測5-2－(山浦陽一)
- ・ 離島での肉用牛生産について(小澤卓)

[特別寄稿]

- ・ 三本木原営農支場からたどる農業の総合性研究(西尾敏彦)

[人文・社会科学系若手研究者助成事業]

令和2年度

- ・ Eコマースによる青果物販売事業における安定供給体制の成立条件(末永千絵)

令和3年度

- ・ 和牛繁殖農家の血統選択と経営戦略に関する研究(井上賢哉)
- ・ 農家民宿経営における費用構造と地域への経済効果に関する実証研究(大學寛和)

* 『農業研究』(別冊)第10号、令和4年12月、B5、211頁

令和4年度日本農業研究所講演会記録

目次内容(敬称略、講演会開催順)

地域と歩む食農学類－特色ある教育研究を目指して－

(講師 生源寺 眞一)

(解題 坪田 邦夫)

新規参入から38年 現在から未来へ

(講師 田下 隆一)

(解題 矢坂 雅充)

「青いレモン」で島おこしー岩城島による国産レモンのブランド化ー

(講師 大本 孝則)

(解題 小澤 卓)

消費者ニーズに応える水稻の多品種栽培と6次産業化の取組

(講師 佐々木 均)

(解題 河原昌一郎)